

金沢市をフェアトレードタウンにする活動 ～社会福祉と環境の視点から～

団体名● FTGs、食☆活／代表者名●高原幸子（人文学部・准教授）

はじめに(背景・目的・目標)

地域連携の活動として、フェアトレードタウン金沢推進委員会という NPO 法人との連携を行い、金沢市を日本において7番目のフェアトレードタウンにするべくフェアトレードの認知度を高め、フェアトレードを扱う商店やイベントを多くし、実際の環境や社会福祉に関する活動も行うことを目的とした。今年度は、特に学内で経済学部の中尾真和教授のゼミが主催する「食☆活」との連携を行い、地域の子ども食堂にフェアトレードの視点を提供したり、フェアトレードタウン金沢推進委員会が行うフェアトレードフェスタに「食☆活」が出展したり、理念として国内の社会福祉の視点と国外の社会福祉の視点をつなげる努力を行った。また、3年前からフェアトレードサークルである FTGs が出来た時から共に顧問を務める人文学部の坂井紀公子准教授、また環境に関する知見を有する人文学部の中原聖乃准教授とも連携を組んで活動を行った。

活動内容

1. フェアトレードフェスタ2024(5月11日)

このイベントは、能登半島地震被災地応援として、ポン菓子や米袋のマイバック、イノシシジビエカレー、能登の塩、はちみつ、ブドウの葉のお茶、門前町のぶどうジュース、輪島の磯揚げ天、珠洲の胡桃と餅などの被災地生産者ブースを設けていた。環境、社会、福祉、地域、食、学校、企業というブースを設けており、この点は多くのステークホルダーがフェアトレードタウンには関わるという理念があるゆえに、合計34団体が出展していた。金沢星稜大学の「食☆活」は、地域のカテゴリーにおいて出展し、てるてる坊主のキーホルダーや、リサイクルサリー（フェアトレード産品）のミサンガを作るワークショップを行った。一方、金沢星稜大学の FTGs は、アフリカ・マラウイの給食支援になる珈琲ドリップパックのデザインをするワークショップを行っていた。それぞれに20組を越える参加者がいた。

2. 能登応援学園祭(6月8日9日)

フェアトレードフェスタに出展した能登地域の生産者4団体(主に高齢者、障害者の施設)が学祭に出展し、販売者として、食☆活と FTGs から2日間で約20名が参加した。

3. 珠洲・大学ボランティア活動(9月6日)

珠洲市社会福祉協議会の主催で集った高齢女性約30名ほどに、学生約30名と教職員とでボランティアを行った。その際、「食☆活」が子ども宅食事業などにおいて行っていた、射的、写真立てのデコレーション、刺繍糸のミサンガづくりのワークショップを行った。震災から半年経ち、久しぶりに会えた人たちがおり、和やかな雰囲気になった。

4. 金沢国際交流祭り(10月12日)

金沢市役所前広場にて、毎年行われる在日外国人グループや国際協力団体などが出展し、文化交流を行うイベントにて、フェアトレードタウン金沢推進委員会として、フェアトレード認証ラベルのあるダートコーヒー社のドリップコーヒーの販売、FTGs の5名のメンバーが、南アジアのリサイクルサリーの紐でミサンガづくりのワークショップを行った。

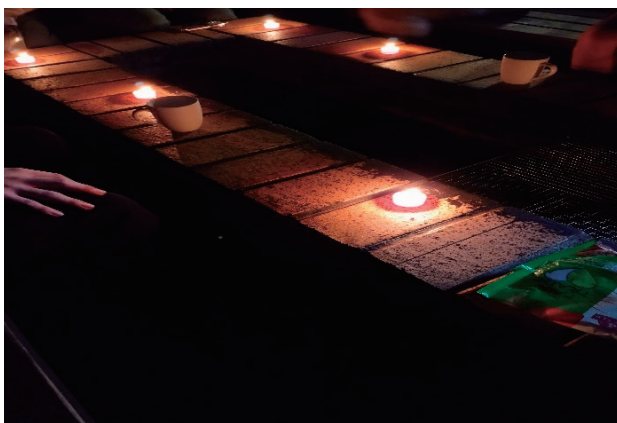
5. エシカル・マーケット(10月20日)

金沢市役所第二庁舎にて、倫理的消費に関わるマーケットをフェアトレードタウン金沢推進委員会主催で行った。そこには、フェアトレードショッパージュール、ダートコーヒー株式会社、カエルデザイン合同会社、社会福祉法人団体などの26の団体が参加した。FTGs は、マラウイの給食支援になるコーヒーと紅茶のドリップパックの試飲提供を行った。

6. FTGs の志賀町における研修合宿(11月16日17日)

フェアトレードタウン金沢推進委員会の事務局を務める川崎朱美子さんは、カエルデザイン合同会社の運営を行っており、その話を講義していただく機会を合宿で設けた。カエルデザインは、海岸のプラスチックごみを拾い、そのカラフルなごみを圧縮し、アクセサリーへと加工している。その過程を障害者の授産施設にお願いしているという点も、フェアト

レードの理念に叶う議論であった。また、マイクロプラスチックが人間や地球環境への影響がある点も喚起され、ごみの取り扱い方を気を付ける必要性を認識した。この合宿では、共同で協力し合い生活をするという目的も共有しており、フェアトレードで、スリランカのスパイス農家への支援にもなる「カレーの壺」を使用し、夕食を作り、食した。また、現在は稼働はしていないが、志賀町は原子力発電所がある場所であり、エネルギーの使用に関して考えるため、エネルギーを使用しないキャンドルタイムを設けた。7名のメンバーが参加した。



(志賀町にてキャンドルタイム)

7. クリスマスフェスティバル(12月22日)

食☆活と FTGs とのコラボレーション企画として、生活困窮家庭にクリスマスの食提供として、フェアトレードカレーを20組ほどの世帯に提供した。スリランカのスパイス農家支援のカレーである。また、スポーツゲーム、クイズ、ミサンガなども子どもに提供した。クイズに関しては、フェアトレードの仕組みは子供には少し理解しにくい社会問題であった模様である。



(クリスマスフェスティバルにてカレー作り)

成果、結果の考察

春夏秋冬に渡る7本のイベントに参加し、学生のフェアトレード、社会福祉、環境に関する知見が深まった。また、学生が主体的に事業企画を行うことで、地域で直接人々と話をしながら、事業を作り上げる達成感を味わうことが可能となった。能登の震災は予定することではなかったが、震災の生産者支援に関わる結果となった。

今後の課題、展望

1. 能登の震災の復興に、フェアトレードという考え方がどのように寄与することができるか、今後の課題として捉えたい。
2. 学生と共同で開発した、体感型のワークショップの有効性を議論していきたい。
3. 子どもにフェアトレードのしくみを伝える際の工夫と気を付ける点を認識の課題としたい。
4. 子どもや被災者に対する倫理的配慮についての議論をしていきたい。